

2018 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 佳作

色とりどりの地球に

(原文)

片岡 由喜依 (8 歳)

東京都

港区立高輪台小学校

今日も、私は姉とけんかをしました。でも、少し時間がたつと、さみしくなってしまいます。「あんなこと言わなければよかった。」という気持ちでいっぱいになります。今、世界中で、あらいそいがたくさん起こっています。あらいそいをしている人は、いやな気持ちにならないのかな、と私はぎもんです。姉と、私は同じ家にすんでいるから、いつかは仲直りできます。ところが、あらいそいは遠くの国へミサイルをとばしたり、せんとうきでばくだんをおとしたりします。顔が見えないあらいそいです。こんなでは仲直りのきかいがありません。

私の祖父母の家には畑がたくさんあります。その畑で祖父は、大根や、イチゴや、それにきゅうりなどのたくさんの野さいなどを育てています。あらいそいが起こったら、野さいは育てられません。畑がばくだんでなくなってしまうからです。のうぎょうは、平和でないとできません。私は、祖父の作った大根や、トマトを世界中の人々へ送りたいと考えています。そして、このおいしい大根とトマトと一緒に作りましょうとよびかけます。おじいちゃんの所へみんなをつれて行って、やさいの作り方を教えてもらいます。おじいちゃんの大根はぜっぴんなので、まず、ダイコンを教えます。次に、大玉のトマトを教えます。そして、おじいちゃんが作っている物を全部教えます。宇宙から見ると、りくは、作物でいっぱい、海は、海の近くにはえている作物を魚が食べて、とても元気な魚でいっぱいになります。そうすれば、地球は、大根の白や、トマトの赤で色とりどりになります。そして、人の心も豊かになるうえに、地球も豊かになります。私の起こしたいへんかは地球をのうじょう王国にして、たたかいをなくすことです。